

マルバオモダカ

Caldesia parnassifolia (Bassi ex L.) Parlat.

オモダカ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

1900年代末まで、県内では自生が確認されていなかったが、その後稀産することが判明した。(現況:RO)

形態

葉は根生で、水深が浅い場合には抽出葉もある。水深が深い場合は、長い葉柄の先に浮葉をつける。葉身は最初は卵形、成葉は円形で基部は心形。花梗は三数性で両性花。

国内分布

北海道の一部、本州、四国、九州。世界の温帯に広く分布するがいずれも絶滅の危機にある。

県内分布

外浦区。

生態など

池沼等の水底に生える抽水・浮葉植物。

生育環境

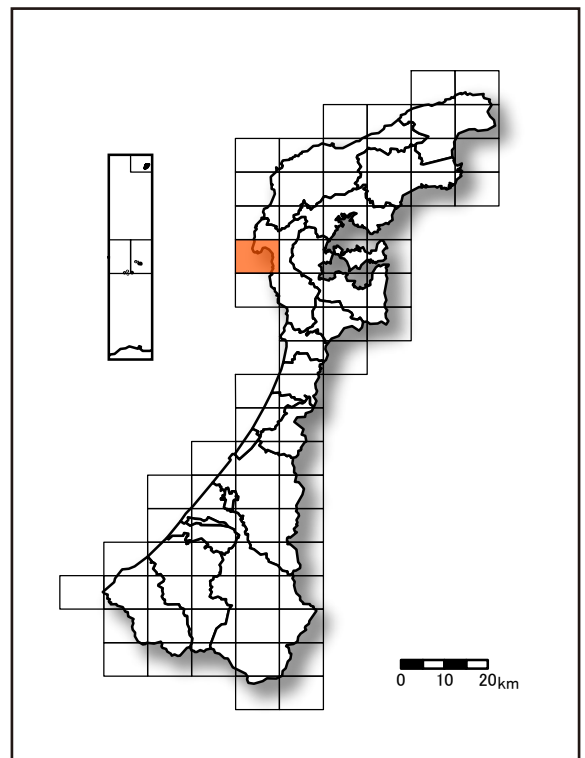
生育環境の池沼等が失われつつある現状にある。

危険要因

池沼開発、河川開発、湿地開発、農薬汚染、自然遷移。



小野ふみゑ・2005年8月25日・能登



県内の分布